

# 世界で活躍する音楽家育成のための拠点づくり

【担当省庁】内閣府

## 奈良県における取組

### 1. 音楽の振興と次世代育成

#### (1) 奈良県立ジュニアオーケストラの活動

奈良県知事の荒井正吾を団長として、2011年6月12日に結成した、**他に類を見ない県立のジュニアオーケストラ**である。

小学生から高校生まで幅広い世代の楽団員が、奈良県文化会館内で練習に励み、著名な演奏家と共演する貴重な経験を重ね、**世界的音楽家を目指す**団員も出てきている。

#### (2) 「ムジークフェストなら」の開催

**「音楽で、奈良を元気に」**という思いから2012年にスタートした。

社寺や音楽ホール、街中のカフェなど県内各地の様々な場所でコンサートを開催し、地域振興を図っている。

クラシックのみならず、ファミリーコンサート、若者向けコンサートなど、幅広い年齢層の方が楽しめる内容となっている。

#### (3) 「みんなでたのしむ大芸術祭」の開催

**障害のある人もない人も、世代を問わず共に文化活動を楽しみ**、絆を深めるため、全国で初めて「第32回国民文化祭・なら2017」及び「第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会」を一体開催した。その後もこれを継続し、本年度は「みんなでたのしむ大芸術祭」と改称して発展的に活動している。

### 2. 課題：人材育成拠点（奈良県文化会館）の整備

奈良県文化会館は、中核となる国際ホールの音響効果が好評を得ているものの、施設全体は音楽専用ホールではなく複合文化施設として整備されたものである。ジュニアオーケストラなどに適した練習場所がなく、発表の場となる小規模ホールも必要である。

そのため施設の一部を練習場や小ホールに改築し、併せて国際ホールを機能向上改修により再利用し、**本格的な多機能型音楽ホールとして再生**する。

これまで実施している音楽関連の取組を発展させて良質な音楽に触れる機会を増やし、**音楽家を志す子供たちの育成を促進**することにより、県の文化レベルの引き上げ、地方創生のための人材育成、集客力強化を目指す。

